

子宮の病気、早期発見を

咲くやこの花 プロジェクト 映画試写会で啓発



子宮内膜症などに関する啓発映像を上映した特別試写会＝岐阜市柳津町丸野、T O H O シネマズ岐阜

女性の健康を啓発・応援する岐阜新聞社の「咲くやこの花プロジェクト」の一環で、28日公開の映画「今日も嫌がらせ弁当」の特別試写会が23日、岐阜市柳津町丸野のT O H O シネマズ岐阜で開かれた。また、子宮内膜症と子宮筋腫についての啓発映像も上映され、221人が早期発見の大切さを学んだ。

プロジェクトでは、観客の10、20代や親世代に女性特有の病気への理解を深めてもらおうと啓発映像を制作し、年2回、映画の試写会の際に上映している。映画は、シングルマザーが反抗期を迎えた娘に弁当を通じて大切なメッセージを伝える物語で、篠原涼子さんと芳根京子さんが出演。上映後、監督を務めた

土岐市出身の塚本連平さんが舞台あいさつをした。

啓発映像では、松波総合病院(羽島郡笠松町)産婦人科の今井篤志医師が二つの病気について紹介した。はがれ落ちた子宮内膜が卵巣に逆流して起こる子宮内膜症は10代後半～20代の発症が多く、不妊症やまれに卵巣がんの原因になることから「月経時以外の腹痛など、初期症状の段階で検診を受けて」とアドバイスした。また、子宮筋腫は「筋腫のこぶで胎児が出られず帝王切開での出産となる可能性がある」と説明。出産希望の有無などライフプランに合わせて療法を使い分けるよう語り掛けた。